

線形代数学第 2

平成 21 年度後期 中間試験 問題 & 解答例

電子情報学類 1 年生 (1 組) 2009.11.25

1. 曲線 $y = C + D2^t$ で 3 点 $(t, y) = (0, 1), (1, 2), (2, 3)$ を近似するとき, 誤差の二乗和を最小にするように C, D を求めよ. y, C, D, t はスカラーである.

< 解答例 >

曲線 $y = C + D2^t$ に $(t, y) = (0, 1), (1, 2), (2, 3)$ を代入して、次の連立方程式を得る.

$$\begin{aligned} 1 &= C + D \\ 2 &= C + 2D \\ 3 &= C + 4D \end{aligned} \quad (1)$$

これを行列の形で表す.

$$\begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 2 \\ 1 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} C \\ D \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix} \quad (2)$$

この方程式を $Ax = b$ として, 最小 2 乗解 $\bar{x} = (A^T A)^{-1} A^T b$ を求める.

$$\bar{x} = \begin{bmatrix} C \\ D \end{bmatrix} \quad (3)$$

$$= \left(\begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & 2 \\ 1 & 4 \end{bmatrix} \right)^{-1} \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 2 & 4 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix} \quad (4)$$

$$= \begin{bmatrix} 1/2 \\ 9/14 \end{bmatrix} \quad (5)$$

これより,

$$C = \frac{1}{2} \quad D = \frac{9}{14} \quad (6)$$

2. \mathbf{R}^4 における部分空間 V のベクトル $\mathbf{x} = [x_1, x_2, x_3, x_4]^T$ が次式を満たすとき、以下の問に答えよ。

$$x_1 + x_2 - x_3 + x_4 = 0$$

$$x_1 - x_2 + x_3 + x_4 = 0$$

(a) 空間 V の基底を求めよ。

<解答例>

基底とは「空間を張る線形独立なベクトル」である。上式の関係より、 x_1, x_2, x_3, x_4 の内、2 個の変数は従属となる。すなわち、独立に決められる変数は 2 個である。これは線形独立なベクトルが 2 個であることを意味する。仮に、 $x_1 = 1, x_2 = 0$ 及び $x_1 = 0, x_2 = 1$ とすると、上式より、

$$1 + 0 - x_3 + x_4 = 0$$

$$1 - 0 + x_3 + x_4 = 0$$

及び

$$0 + 1 - x_3 + x_4 = 0$$

$$0 - 1 + x_3 + x_4 = 0$$

となり、 $x_3 = 0, x_4 = -1$ 及び $x_3 = 1, x_4 = 0$ を得る。以上より、空間 V を張る線形独立なベクトル、すなわち基底は次のようになる。

$$\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ -1 \end{bmatrix} \quad \mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (7)$$

基底が 2 個のベクトルであるから、この空間 V は 2 次元であり、平面となる。

(b) 空間 V を列空間とする行列 A を求めよ。

<解答例>

A は空間 V の基底を列ベクトルとする行列である．上の結果より，

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{bmatrix} \quad (8)$$

(c) 空間 V 上で，座標点 $(1, 1, 1, 1)$ への距離が最小となる点の座標を求めよ．

< 解答例 >

空間 V は行列 A の列空間であるから，ベクトル $b = [1, 1, 1, 1]^T$ から行列 A の列空間への射影 p が求める解である．

$$p = A(A^T A)^{-1} A^T b \quad (9)$$

$$= \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{bmatrix} \left(\begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \\ 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{bmatrix} \right)^{-1} \\ \times \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix} \quad (10)$$

従って，求める座標は $(0, 1, 1, 0)$ となる．

3. 以下の問に答えよ．

(a) 線形独立なベクトル $a_1 = [1, 1, -1]^T$, $a_2 = [1, 0, 1]^T$, $a_3 = [0, -1, 1]^T$ を互いに直交するベクトル v_1, v_2, v_3 に変換せよ．

< 解答例 >

$$v_1 = a_1 \quad (11)$$

$$v_2 = a_2 - \frac{v_1^T a_2}{v_1^T v_1} v_1 \quad (12)$$

$$v_3 = a_3 - \frac{v_1^T a_3}{v_1^T v_1} v_1 - \frac{v_2^T a_3}{v_2^T v_2} v_2 \quad (13)$$

より, v_1, v_2, v_3 が次のように求まる.

$$v_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ -1 \end{bmatrix} \quad v_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} \quad v_3 = \begin{bmatrix} 1/6 \\ -1/3 \\ -1/6 \end{bmatrix} \quad (14)$$

(b) v_1, v_2, v_3 が互いに直交することを確認せよ.

<解答例>

これらのベクトルの内積が零になることを確かめる.

$$v_1^T v_2 = \begin{bmatrix} 1 & 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix} = 0 \quad (15)$$

$$v_1^T v_3 = \begin{bmatrix} 1 & 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1/6 \\ -1/3 \\ -1/6 \end{bmatrix} = 0 \quad (16)$$

$$v_2^T v_3 = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1/6 \\ -1/3 \\ -1/6 \end{bmatrix} = 0 \quad (17)$$

4. q_1, q_2, q_3 を正規直交系ベクトルであるとする. q_1, q_2, q_3 を列ベクトルとする行列 Q が零でないベクトル x に対して $\|Qx\| = \|x\|$ を満たすことを示せ (ヒント) 先ず, $Q^T Q = I$ を示す.

<解答例>

行列 Q^T の第 i 行は q_i^T , Q の第 j 列は q_j であるから, $Q^T Q$ の i 行 j 列は $q_i^T q_j$ となる. q_i は正規直交系であるから, $q_i^T q_j = 1, i = j$ または $q_i^T q_j = 0, i \neq j$ となる. すなわち, $Q^T Q = I$ となる. 次に, $\|Qx\|$ と $\|x\|$ を比較する.

$$\|Qx\|^2 = (Qx)^T Qx = x^T Q^T Qx = x^T x = \|x\|^2$$

これより, $\|Qx\| = \|x\|$ となる.

5. 行列式に関して, 以下の問に答えよ. (c), (d), (e) は 2×2 の具体例ではなく, 一般的に証明せよ.

(a) 次式を用いて, 「(性質 1) 行列式は一つの行に関して線形関数である」こ

とを証明せよ .

$$\begin{vmatrix} a & b \\ c & d \end{vmatrix} = ad - bc \quad (18)$$

< 解答例 >

式 (18) の第 1 行を $a + te, b + tf$ とする .

$$\begin{vmatrix} a + te & b + tf \\ c & d \end{vmatrix} = (a + te)d - (b + tf)c \quad (19)$$

$$= (ad - bc) + t(ed - fc) \quad (20)$$

$$= \begin{vmatrix} a & b \\ c & d \end{vmatrix} + t \begin{vmatrix} e & f \\ c & d \end{vmatrix} \quad (21)$$

以上より , 行列式は一つの行に関して線形関数である .

- (b) 上式を用いて「(性質 2) 2 つの行が交換されると行列式は符号を変える」ことを証明せよ .

< 解答例 >

式 (18) で行を入れ替える .

$$\begin{vmatrix} c & d \\ a & b \end{vmatrix} = cb - ad = -(ad - bc) = - \begin{vmatrix} a & b \\ c & d \end{vmatrix} \quad (22)$$

よって , 行の入れ替えにより , 行列式の符号が変わることが示された .

- (c) 性質 1 または性質 2 (必要であれば両方) を用いて「(性質 4) 行列の 2 つの行が等しい場合は行列式は零である」ことを証明せよ .

< 解答例 >

2 つの行が等しい行列を A とする . 等しい行を入れ替えても行列は同じである . しかし , 性質 2 より , 行列式は符号を変える . 従って ,

$$\det A = -\det A \quad (23)$$

これより , $\det A = 0$ となる .

- (d) 性質 1 , 4 を用いて「(性質 5) ある行の何倍かを他の行から引くことにより , 行列式は変わらない」ことを証明せよ .

< 解答例 >

行列 A において, 第 i 行の k 倍を第 j 行から引く操作を行い, その結果を行列 B とする. 性質 1 より,

$$\det B = \det A - k \det \hat{A} \quad (24)$$

但し, \hat{A} では, 第 i 行と第 j 行が同じである. 性質 4 より,

$$\det \hat{A} = 0 \quad (25)$$

であるから,

$$\det B = \det A \quad (26)$$

となる.

- (e) 性質 4, 5 を用いて「零の行を持つ行列の行列式は零である」ことを証明せよ.

< 解答例 >

零の行を持つ行列 A において, 零でない行を零の行に加え, これを B とする. 性質 5 より, 行列式の値は変わらない. すなわち, $\det A = \det B$ である. 一方, 行列 B は同じ行を含むことになるから, 性質 4 より, $\det B = 0$ となる. 従って, $\det A = 0$ となる.

6. 次の行列式を求めよ. 行列の性質 1 ~ 10, または行列式の適当な公式を用いて計算する.

$$A = \begin{bmatrix} 0 & 2 & 0 & 0 \\ -1 & 5 & 0 & 0 \\ 3 & -3 & 2 & -1 \\ 2 & 2 & 0 & 1 \end{bmatrix} \quad B = \begin{bmatrix} 2 & 1 & -3 & 5 \\ 0 & -1 & 0 & 2 \\ 0 & 0 & 3 & -1 \\ 0 & 0 & 0 & 3 \end{bmatrix}$$

$$C = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 0 & 2 \\ 0 & 3 & -1 & 0 \\ -1 & 1 & 0 & -2 \\ 2 & -3 & -1 & 0 \end{bmatrix} \quad D = \begin{bmatrix} 1 & -2 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 0 & 2 \\ -2 & 0 & 1 & 2 \\ 2 & -1 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

< 解答例 >

A の第 1 行, 第 2 行では零の要素が多いので余因子展開を用いる.

$$\det A = 2 \times (-1)^{1+2} \begin{vmatrix} -1 & 0 & 0 \\ 3 & 2 & -1 \\ 2 & 0 & 1 \end{vmatrix} \quad (27)$$

$$= 2 \times (-1)^{1+2} \times (-1) \times (-1)^{1+1} \begin{vmatrix} 2 & -1 \\ 0 & 1 \end{vmatrix} \quad (28)$$

$$= 2 \times 2 = 4 \quad (29)$$

B は上三角行列であるから, 行列式は対角要素の積である.

$$\det B = 2 \times (-1) \times 3 \times 3 = -18 \quad (30)$$

行列 C は, 第 1 行 = -(第 3 行) であり, 特異行列となる, 従って, 行列式 = 0 である.

(別解法) 行列 C をガウスの前進消去により変形し, 零の行が発生することを示す(具体的に計算する). 零の行を含むことから, 行列式 = 0 となる.

行列 D をガウスの前進消去により, 上三角行列に変形する.

$$\begin{aligned} D &= \begin{bmatrix} 1 & -2 & 1 & 0 \\ 1 & -1 & 0 & 2 \\ -2 & 0 & 1 & 2 \\ 2 & -1 & 0 & 1 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -2 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \\ 0 & -4 & 3 & 2 \\ 0 & 3 & -2 & 1 \end{bmatrix} \\ &\rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -2 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \\ 0 & 0 & -1 & 10 \\ 0 & 0 & 1 & -5 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{bmatrix} 1 & -2 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & -1 & 2 \\ 0 & 0 & -1 & 10 \\ 0 & 0 & 0 & 5 \end{bmatrix} \quad (31) \end{aligned}$$

これより,

$$\det D = 1 \times 1 \times (-1) \times 5 = -5 \quad (32)$$

7. 次の連立方程式の解をクラメルの公式により求めよ .

$$\begin{aligned}u + v - w &= 1 \\u - 3v + 2w &= -1 \\2u + v - w &= 2\end{aligned}$$

< 解答例 >

上式を行列の形で表す .

$$\begin{bmatrix} 1 & 1 & -1 \\ 1 & -3 & 2 \\ 2 & 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u \\ v \\ w \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ 2 \end{bmatrix} \quad (33)$$

この方程式を $Ax = b$ とする . 解はクラメルの公式により , $z = \det A_z / \det A$, $z = u, v, w$. A_z は $z = u, v, w$ に対して , A の第 1, 2, 3 列を b で置き換えた行列である . 以下 , 具体的に計算する .

$$\det A = \begin{vmatrix} 1 & 1 & -1 \\ 1 & -3 & 2 \\ 2 & 1 & -1 \end{vmatrix} = -1 \quad (34)$$

$$\det A_u = \begin{vmatrix} 1 & 1 & -1 \\ -1 & -3 & 2 \\ 2 & 1 & -1 \end{vmatrix} = -1 \quad (35)$$

$$\det A_v = \begin{vmatrix} 1 & 1 & -1 \\ 1 & -1 & 2 \\ 2 & 2 & -1 \end{vmatrix} = -2 \quad (36)$$

$$\det A_w = \begin{vmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & -3 & -1 \\ 2 & 1 & 2 \end{vmatrix} = -2 \quad (37)$$

以上より ,

$$u = 1 \quad v = 2 \quad w = 2 \quad (38)$$

8. 次の行列 A の逆行列を $\text{adj } A / \det A$ により求めよ.

$$A = \begin{bmatrix} 1 & -1 & 2 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 2 \end{bmatrix}$$

<解答例>

$$\det A = \begin{vmatrix} 1 & -1 & 2 \\ 0 & 1 & -1 \\ 0 & 0 & 2 \end{vmatrix} = 2 \quad (39)$$

$$\text{adj } A = \begin{bmatrix} A_{11} & A_{21} & A_{31} \\ A_{12} & A_{22} & A_{32} \\ A_{13} & A_{23} & A_{33} \end{bmatrix} \quad (40)$$

$$A_{11} = (-1)^{1+1} \begin{vmatrix} 1 & -1 \\ 0 & 2 \end{vmatrix} = 2 \quad (41)$$

$$A_{12} = (-1)^{1+2} \begin{vmatrix} 0 & -1 \\ 0 & 2 \end{vmatrix} = 0 \quad (42)$$

$$A_{13} = (-1)^{1+3} \begin{vmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{vmatrix} = 0 \quad (43)$$

$$A_{21} = (-1)^{2+1} \begin{vmatrix} -1 & 2 \\ 0 & 2 \end{vmatrix} = 2 \quad (44)$$

$$A_{22} = (-1)^{2+2} \begin{vmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 2 \end{vmatrix} = 2 \quad (45)$$

$$A_{23} = (-1)^{2+3} \begin{vmatrix} 1 & -1 \\ 0 & 0 \end{vmatrix} = 0 \quad (46)$$

$$A_{31} = (-1)^{3+1} \begin{vmatrix} -1 & 2 \\ 1 & -1 \end{vmatrix} = -1 \quad (47)$$

$$A_{32} = (-1)^{3+2} \begin{vmatrix} 1 & 2 \\ 0 & -1 \end{vmatrix} = 1 \quad (48)$$

$$A_{33} = (-1)^{3+3} \begin{vmatrix} 1 & -1 \\ 0 & 1 \end{vmatrix} = 1 \quad (49)$$

以上より,

$$\mathbf{A}^{-1} = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 2 & 2 & -1 \\ 0 & 2 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{bmatrix} \quad (50)$$